



8

「日本包囲網」

大半のメディアは、ビル・クリントン政権で国家情報会議議長、国防次官補を歴任し、ハーバード大学ケネディ行政大学院院長だったジョセフ・ナイ、國務副長官を

する好機だったにも拘らず。

「参拝するなど（中韓両国から）言われたら逆に首相は参拝すべき」と十年近く前には公言していたアーミテージ氏は安倍晋三首相の靖国神社参拝に関して、「これまで積み上げてきたものを全て壊すインパクトがある」と自民党幹部に強調と毎日新聞が報じ、日本経済新聞が米国の戦略国際問題研究所（CSIS）と共催のシンポジウムでナイ氏も、「参拝すると大きな打撃を近隣諸国に与え、米国との関係でもマイナスの波及効果になる」と発言。同研究所幹部は「日本が強硬姿勢を続ければ米議会も背を向ける」と指摘しました。

ジョージ・W・ブッシュ政権で務めたリチャード・アーミテージ氏の十月末の来日時発言を、何故か積極的には報じませんでした。同盟国の深慮と憂慮を冷静に把握

その一ヶ月前に2プラス2日米安全保障協議委員会で来日したジョン・ケリー國務長官とチャック・ヘーゲル国防長官は首相官邸へ赴く直前、日本側の招待でなく米国内の意向で千鳥ヶ淵戦没者墓苑を訪れ、「アーリントン国立墓地に最も近い存在」と同行の国防総省高官は記者団に説明。「日本の防衛相がアーリントンで献花するのと同じように（戦没者に哀悼の意を表した）」との両長官の発言をAFP通信が報じています。

前述のシンポジウムでナイ氏は「慰安婦の強制性と日本軍の関与を認めた」、河野談話の良い点は、歴史問題に関して明確に処理した事。これを否定すれば日本に大きなダメージとなる」と発言。アーミテージ氏も「日本は」従軍慰安婦問題に触れないで欲しい」と語りました。

数日後の十一月五日、岸田文雄外相は参院外交防衛委員会で、「村山談話の」植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与え」の箇所を「安倍内閣として引き継いでいる」と答弁します。半年前の五月十五日の参院予算委員会に於ける首相答弁「主体として受け継いでいる」よりも具体的に、「疑うべくもないこの歴史の事実」、「痛切な反省の意を表し、心からのお詫びの気持ちを表明」に踏み込んだのです。

「白熱討論」と題し日経新聞と慶應大学が共催した学生との意見交換会でもアーミテージ氏は、「日本が集団的自衛権を行使しなくても日米の友好関係は続くのか」との質問に対し、「百パーセント同盟は続く。ただ行使出来れば日本は東

アジアの平和と安定により貢献出来る」と答えました。イラク戦争時には「ブーツ・オ・ザ・グラウンド」を求めた彼は今回、解釈改憲で集団的自衛権を行使可能なのは南半球や中近東、更には東南アジアでもなく、「東アジアの平和と安定」に限定ですと日本に箍を嵌めたのです。

アメリカの国別輸出入額で中国が日本を凌駕する現実を鑑みてか、慰安婦や靖国で中韓両国を刺激して（逆に米国の東アジアで集団的自衛権を行使せざるを得ない）不測の事態を引き起こす勿れと二人は復唱しています。アメリカの意向は民主党、共和党の立場を超えて明々白々。無体なのは中韓両国だと同じ感情的土俵に日本は上がり「静観」し、君達が熱願する集団的自衛権も、伝家の宝刀に留めるべく隠忍自重するのが望ましいとの「日本包囲網」。

実は十一月の来日直前にダライ・ラマ十四世も亡命先のインドで「習近平国家主席は現実的な志向の持ち主。独立を求めず、経済発展する中国に残る選択がチベットの利益」と「新見解」を公言！その深慮や如何に。詳説は次号で。

★次号1月号の発行日は12月27日（第4金曜日）です。